

特集にあたって -- ソウルと平壤 (特集 朝鮮半島の都市)

著者	中川 雅彦
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	236
ページ	2-3
発行年	2015-05
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00003203

特集にあたって

—ソウルと平壤—

中川 雅彦

本企画は朝鮮半島の都市についてその特徴を見出そうとするものである。朝鮮半島の都市を語るのであれば、まずソウルと平壤をとりあげなければならない。

ソウルは韓国の首都、平壤は朝鮮民主主義人民共和国の首都であり、いずれもそれぞれの領域において最大の人口を誇る。ソウルは、日本の県に相当する道と同級の市であり、正式名称はソウル特別市である。平壤も道と同級の市であり、一時、平壤特別市と呼ばれたが、現在の正式名称は平壤市である。

ソウル特別市の人口は、二〇一〇年のセンサスで九七九万四三〇四人である。一九四四年に朝鮮総督府が発表した京城府（後にソウル特別市）の人口は一一一萬四〇〇四人であるから、六六年間で八・八倍になったことになる。そして、平壤市の人口は、二〇〇八

年のセンサスで三二五万五二八八人である。同じく一九四四年の平壤府（後に平壤市）の人口は三八万九一〇五人であるから、六四年間で八・四倍になったことになる。

人口増加の度合いはさして変わらないが、面積の拡大の度合いは大きく違う。建国時のソウル特別市の面積は一三三・九四平方キロ（一九一四年）であり、二〇一三年では六〇五・二〇平方キロ、四・五倍に拡大した。そして、建国時の平壤市の面積は六〇・七平方キロ（一九三八年）であり、一九九〇年に発表された数字では二六二九・四平方キロ、四三倍に拡大した。

●ソウルと首都圏
二〇一〇年のセンサスではソウル特別市に農村地域はなく、市の人口九七九万四三〇四人はそのま

ま都市人口である。そしてソウルの人口は、韓国第二の都市釜山の三四一万四九五〇人、第三の都市仁川の二六六万二五〇九人に比べても格段に多い。ソウル特別市とその近辺の京畿道、仁川広域市をひっくるめて首都圏といわれるが、京畿道の人口が一一三七万九四五九人、仁川広域市の人口が二六六万二五〇九人で、合わせて首都圏の人口は二三八三万六二七二人になる。これは国の総人口の四九・一%を占める。

首都圏の都市の多くはソウルの衛星都市としての機能を持っている。二〇一〇年のセンサスでは通勤通学に関する調査は実施されていないが、二〇〇五年のセンサスによると、ソウルに通勤または通学する人口が一人を超過する市は二個ある（表1）。このうち、通勤通学人口に対するソウル通勤通学者の比率（ソウル通勤通学比率）が四割を超過している果川市と

光明市は、電話の市外局番がソウルと同じ〇二なので、多くの住民はソウルの一部に住んでいるような感覚でいる。ソウルへの通勤通学人口で一位と二位の城南市と高陽市はそれぞれ、一九九〇年代初めに本格的に建設がスタートした益唐新都市、一山新都市を有している。しかもこれらの新都市の住居は人気があり、ソウル市内から引越してきた人々が多い。

新都市建設は軍浦市、富川市、安養市、華城市、坡州市、金浦市で進められており、これらの市はソウルの衛星都市としての機能が強くなっていくであろう。

●農村人口を有する平壤

二〇〇八年のセンサスでは平壤市の人口は三二五万五二八八人で、ソウルと同じく、他の都市に比べても格段に多い。しかし、ソウルと違って農村部があり、四三万八七四人の農村人口があり、平壤市人口の一三・三%を占めている（表2）。

平壤市は、中区域を中心とし、西城区、牡丹峰区域、普通江区域、平川区域、大同江区域、東大院区域、船橋区域の都合八区域で構成される市内中心部が一都市と

表2 朝鮮民主主義人民共和国の都市の都市人口と農村人口(人)

	2008年人口	都市人口	農村人口
平壤市	3,255,288	2,823,414	431,874
咸興市	768,551	702,610	54,359
清津市	667,929	614,892	53,037
南浦市	366,815	310,864	55,951
元山市	363,127	328,467	34,660
新義州市	359,341	334,031	25,310
端川市	345,875	240,873	105,002
价川市	319,554	262,389	57,165
開城市	308,440	192,578	115,862
沙里院市	307,764	271,434	36,330
順川市	297,317	250,738	46,579
平城市	284,386	236,583	47,803
海州市	273,300	241,599	31,701
江界市	251,971	251,971	0
安州市	240,117	167,646	72,471
徳川市	237,133	210,571	26,562
金策市	207,299	155,284	52,015
羅先市	196,954	158,337	38,617
亀城市	196,515	155,181	41,334
恵山市	192,689	174,015	18,665
定州市	189,742	102,659	87,083
熙川市	168,180	136,093	32,087
会寧市	153,532	92,494	61,038
新浦市	152,759	130,951	21,808
松林市	128,831	95,878	32,953
文川市	122,934	92,525	30,409
満浦市	116,760	82,631	34,129

(出所) 2008年センサスより筆者作成。

「衛星都市」のうち、西城区の西浦、龍城区域の龍城および龍文、力浦区域の力浦などは、働く人の大多数が中心部に通勤しており、三石区域の聖文、寺洞区域の徳洞、楽浪区域の猿岩、兄弟山区の間里、万景台区域の太平、龍城区域の御恩などでは、働く人の半数近くが市内中心部に通勤して

している。この構造を韓国の首都圏と比較してみると、行政区域としての平壤市は韓国の首都圏に相当し、平壤市中心部がソウル特別市に相当することになる。規模を比較してみると、平壤市の人口は韓国の首都圏のその七分の一、平壤市中心部の人口はソウル特別市のその八分の一ということになる。

(なかがわ まさひこ/アジア経済研究所 動向分析研究グループ)

この構造を韓国の首都圏と比較してみると、行政区域としての平壤市は韓国の首都圏に相当し、平壤市中心部がソウル特別市に相当することになる。規模を比較してみると、平壤市の人口は韓国の首都圏のその七分の一、平壤市中心部の人口はソウル特別市のその八分の一ということになる。

表1 首都圏のソウル通勤通学人口と比率(人、%)

	ソウル通勤通学人口	ソウル通勤通学比率
京畿道・仁川広域市合計	1,157,224	17.5
城南市	141,393	28.5
高陽市	139,515	32.1
仁川広域市	135,099	10.5
富川市	104,706	23.7
安養市	78,747	24.5
龍仁市	67,694	20.4
光明市	67,227	41.8
議政府市	63,201	31.8
南楊州市	60,596	29.7
水原市	46,926	8.4
九里市	33,831	35.3
軍浦市	30,042	21.6
安山市	28,080	8.0
河南市	24,641	39.7
始興市	20,173	10.1
金浦市	18,229	19.4
廣州市	17,783	17.6
儀旺市	16,007	22.0
坡州市	14,966	13.1
果川市	12,136	41.8
楊州市	11,170	15.4

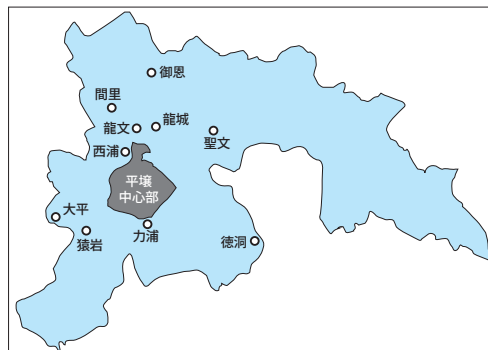
(出所) 2010年センサスより筆者作成。

図1 ソウルと首都圏、主要衛星都市



(出所) 筆者作成。

図2 平壤中心部と「衛星都市」



(出所) 筆者作成。